

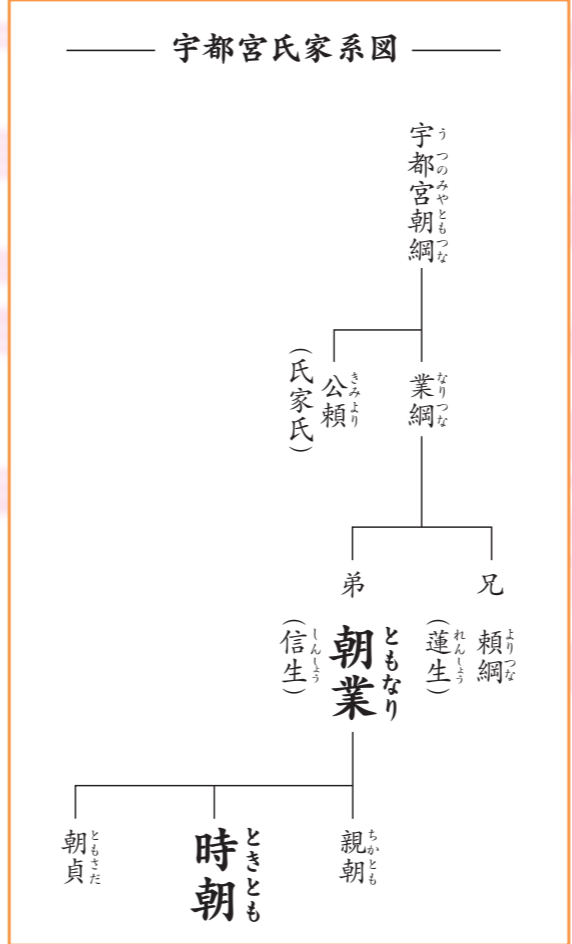
姉妹都市が笠間市なのをご存じでしたか



「法然上人行状絵図」
馬に乗る信生（塩谷朝業）
資料提供／京都知恩院



現存する資料の中で、
笠間時朝を表したものは、
残念ながらありません。



— 笠間市ってどんなところ —

笠間市は、茨城県の中央部に位置し、首都圏から約100km、県都水戸市に隣接し、総面積は、240.27km²となります。

区域は、東西約19km、南北約20kmで構成され、北部は城里町、栃木県、西部は桜川市、東部は水戸市、茨城町、南部は石岡市、小美玉市に隣接しています。

地勢は、市の北西部は八溝山系が穏やかに連なる丘陵地帯で、南西部には愛宕山が位置し、北西部から東南部にかけて、おおむね平坦な台地が広がり、本地域の中央を澗沼川が北西部から東部にかけて貫流しています。

気候は、夏は気温も湿度も高く、冬は乾燥した晴天の日が多い、太平洋型の気候となっています。

(笠間市ホームページより抜粋)



昭和55年8月10日発行の広報で姉妹都市の提携を大きく取り上げています。

市内に残る姉妹都市の証



● 昭和55年7月23日、茨城県笠間市と矢板市との姉妹都市提携盟約式が行われました。

盟約書には、「矢板市と笠間市は、往時川崎城主塩谷朝業公と笠間城主笠間時朝公が親子であるゆかりにもとづき、相互に教育、文化、産業、経済など広く交流を図り、友好と理解を深め、相たずさえて発展することを念願し、ここに両市が姉妹都市として提携することを盟約する。」と記載されています。

● この姉妹都市提携は、鎌倉時代の初代川崎城主「塩谷朝業」と初代笠間城主である「笠間時朝」が親子であることに基つき提携されたものです。

では、笠間時朝とはいったいどのような人物だったのでしょうか。

● 初代笠間城主

笠間時朝は、塩谷朝業の二男として、1204年に誕生し、叔父である宇都宮頼綱の命により、笠間に入りました。

● 文武両道の達人

当時鎌倉武士の多くは、武術にすぐれていたものの、無学の人が多かったと言われている中で、歌人として義父宇都宮頼綱と同様、多くの歌を残しています。武人としてもすばらしく、その身の丈は、178cmもあったとされ、親王將軍の時代には、由緒ある家系や文武両道の者しかなれない「御家人」を務めるなど武人として立派な人物であったことがうかがえます。

● 文化的な業績

笠間時朝は、自ら出家こそしていませんが仏教文化の振興に寄与した業績は大きいとされています。京都蓮華王院(三十三間堂)の千体仏に鎌倉時代の仏像があり、その内寄進した人が分かっているのは、時朝だけということです。このように文化的に大きく寄与した人物と郷土を同じくするということは私たちの誇りです。